

文化交流都市協定

豊島区 × 内子町

内子町の伝統技術と木材で笑顔の交流 「木のおもちゃオリンピック in としま」

26日に行った「木のおもちゃオリンピック in としま」では、内子町産の木を使った「麻の葉文様のオブジェづくり」と「輪ゴム鉄砲射的対決」を実施。内子手しごとの会の山本勝美さんが講師となり、伝統技術や遊びを通じて子どもたちとの交流を深めました。豊島区の戸澤創太くん（目白小4年）は「木をはめ込むのが難しかったけれど、いい作品になった。今度は輪ゴム鉄砲も作ってみたい」と笑顔を見せてくれました。



1_木のコマや輪ゴム鉄砲など豪華な景品で参加者を喜ばせていた 2_魔除けの願いを込めた「麻の葉文様づくり」に熱中 3_狙い方のコツなどを教えて交流していた

「としま×うちこ文化交流都市協定」の調印式が12月27日、東京都・豊島区役所で行われました。今後は文化・芸術を中心とした幅広い分野で両区町の交流と発展を図ります。26・27の両日には、同区の舞台芸術交流センター「あうるすぽっと」で2つの催しを行い、協定締結に花を添えました。

文化交流で相互に発展

文化交流都市協定の調印式には、高野之夫区長と小野植正久町長、両区町議会の議長・副議長、内子町まちづくり応援大使の関口照生さんと竹下景子さんなど18人が出席しました。

和やかな雰囲気の中、高野区長と小野植町長が協定書に署名。交流の証として、豊島区の伝統工芸士・早川福男さんが制作した江戸提灯と、内子手しごとの会の手作り行灯を贈り合いました。高野区長は「今後はさらに交流を深めて、両区町の持続的な発展につなげたい」と協定締結に期待を寄せました。

豊島区ってどんな町

豊島区の人口は約30万人。区の面積は13平方キロメートルで、

人口密度が日本一高い都市です。日本有数の繁華街の池袋や、「おばあちゃんの原宿」と呼ばれる巣鴨があります。マンガ界の第一人者の手塚治虫氏や藤子不二雄④氏が下積み時代を過ごした「トキワ荘」があり、マンガやアニメなどを中心に、新しい文化を生み出してきた町でもあります。現在は伝統文化から最先端のサブカルチャーまで、多様な文化資源を生かす「国際アート・カルチャー都市構想」の実現に向けてまちづくりを進めているそうです。



高層マンションと一体型の豊島区庁舎

交流の軌跡

内子町は平成22年から巣鴨地蔵通りでの「内子フェア」や、豊島区主催の観光物産展などに、交流と連携を深めています。最近では内子手しごとの会の協力で、豊島区内の小学校に町民が訪問してミニ行灯などを一緒に作る「伝統工芸制作体験教室」を行っています。



「柿山伏」を披露した城戸景道さんと森川路仁さん

子どもたちが目指してきた夢の舞台 「東西狂言 in としま 2021」

「東西狂言 in としま 2021」は27日に公演され、約160人が来場しました。東の能楽師和泉流狂言方・野村万蔵さんと、西の能楽師大蔵流狂言方・茂山千三郎さん、内子こども狂言くらぶの子どもたちが共演。平成28年の内子座創建100周年の記念行事で行われた舞台の再現となりました。

同くらぶから選抜された10人が「柿山伏」「かみあそび」の2曲を披露。白石晟柊くん（立川小5年）は「ずっと楽しみにしていた東京公演。緊張したけれど、やり終えてよかった」と声を弾ませました。



「かみあそび」を演じた皆さん。野村万蔵さんと茂山千三郎さんと記念撮影



1_本番前の楽屋。期待と緊張でそれぞれの時間を過ごす 2_内子町の魅力が詰まった新作狂言「かみあそび」が東京都・豊島区の舞台上に 3_子どもたちの熱演が光る